地盤工学会におけるダイバーシティの実現

Promotion of Gender Equality and Diversity Management in the Japanese Geotechnical Society

田　中　真　弓（たなか　まゆみ）
男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会　委員長，鹿島建設(株)　課長代理

1.　はじめに

地盤工学研究発表会では，男女共同参画及びダイバーシティに関する特別セッションを 2005 年以来継続して実施している。2010 年からは，“地域に根ざしたダイバーシティ”という副題のもと，研究発表会開催地で活躍していただいている方々を中心に話題提供していただいている。12 回目となる本年は，中国地方で活躍されている女性・外国籍の方にも講演いただいた。本セッションは，地盤工学会員以外の方も無料で参加できる「一般公開」の行事として実施している。毎年，学会員以外の方にもご参加いただき，活発な意見交換を行う貴重な場となっている。

2.　セッションの概要

特別セッションは，大会初日の 2016 年 9 月 13 日午後に行われた。参加者総数は 35 名である。参加者に対して実施したアンケート調査によると，男女比は男性の方が多く 2 : 1 で，20 代から 60 代以上の幅広い年齢層の方にご参加いただいた。以下に各講演の内容と討議・意見交換の様子について記す。

2.1　ダイバーシティ推進のさきにあるもの

まず，男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会委員長の田中真弓（鹿島建設(株)）から，活動内容について報告をした。学会は人と人とを繋ぐ場の提供を行うのが重要な役割の一つとし，性別や国籍，年齢にかかわらず多様な人々の交流の場として，研究発表会における「サロン・土・カフェ W」の開催，次世代育成のための女子中高生夏の学校への参加，学会のホームページや Facebook を介した情報発信を紹介した。また，地盤工学会誌 2015 年 7 月号小特集「ダイバーシティ推進の先にあるもの」[1] で行った技術者紹介は大変好評であったため，今後も Web にて技術者紹介を継続して行う予定である。

2.2　若手技術者　仕事と育児の両立奮闘記

液状化対策や地盤改良に関する研究をしている大成建設(株)の小林真貴子氏には，妊娠，出産を機に業務内容の変更や勤務時間の調整を行いながら，家庭と仕事の両立をされている様子をご紹介いただいた。妊娠前は外勤が多かった小林氏だが，妊娠が分かってからは内勤で得意でない解析業務を担当することになったが，腰を据えて解析を勉強するよい機会と捉えたと前向きに取り組んでおられた。保育園の送迎があるため時短勤務を利用しており，勤務時間は出産前後で 4 時間少なくなったそうである。1 日に対応できる仕事量が激減してしまい，最初のころは悩んでいたが，「誰かに相談する」，「夫に子どもを預けて休日に自分の時間を作る」，「2 才の娘さんの笑顔」で悩み解決，ストレス発散，癒し効果，で日々の活力を養っているとのことであった。育児関係に関する会社の取り組みとして，大成建設では，「育児サポートプログラム」や「父親セミナー」などが開催されており，組織として働く女性を応援している様子が窺えた。最後に「千里の道も一歩から」という上司の方から送られた言葉をご紹介いただいた。子育ては仕事より大事なこと，仕事は限られた時間の中でしか今はできないが，息の長いものと思って焦らず歩んでいきたいと力強く語っていただいた。

写真－1　小林真貴子氏

2.3　日本留学生活，当時の恐れと希望

韓国出身の岡山大学，金　秉洙氏には，なぜ留学を日本に決めたのか，その時に感じた「不安」などをお話しいただいた。

金氏は，修士 1 年の時に初めて日本の大学を訪れ，日本の大学の雰囲気や，色々な実験装置に非常に興味を持ち，ここで勉強したら立派な人間になりそうと強く思ったそうである。その想いが日本の大学の担当教官にも通じ，留学を検討してみてはどうかと声をかけていただいた。しかし，韓国のご両親に反対され，自分も言語・韓国の友人との繋がりが薄れることなどに不安があり，かなり悩まれたようである。だが，最終的には「10 年後の自分が今の自分を見たときに後悔しない自信があるか？」を自分自身に問い，留学を決意された。日本の大学の博士課程に行ってからも不安だったが，地盤工学会の優秀論文発表者賞を得たことが自信になり，今の自分の道ができたそうである。

金氏のご発表の中で，海外への留学や就職は大きな不安や恐れはあるが，「選択は本人の責任。いつも希望はある。」という言葉があっ

写真－2　金　秉洙氏

た。これは，将来に不安を感じている全ての人に心強いエールとなるのではないだろうか。

2.4　世代間交流ワールドカフェ報告　～世代間ギャップに見られる WLB について～

ダイバーシティ委員会では，2013 年から毎年若手ワールドカフェを開催している。今年度は，若手に限らず 20 歳代～60 歳代以上の幅広い年代の方々に参加いただき，6 月 19 日に地盤工学会館で「世代間交流ワールドカフェ」を開催した。その様子を本委員会委員である茨城大学の熊野直子氏に報告いただいた。

まず，ワールドカフェに先立ち実施した，ワークライフバランスに関するアンケート結果の説明があった。業務も学会活動も 20 代より 30 代以降の方が増加傾向にあるが，委員会参加は人材交流・人脈形成がアドバンテージと考えている人が多かった。また，世代間の技術伝承を目的としたメンター制度を地盤工学会が支援する案については，人生経験の豊富なメンターが近くにいないような組織（例えば女性の先輩がいない）では需要はありそうだが，ボランティアで行うのは本業もあるので難しい，というコメントがあった。

ワールドカフェでは，若手・ベテランの悩みとメンター制度について意見交換をされ，若手は業務内容・業務量・勉強方法・育児との両立・転職の仕方などについて，ベテランは部下とのジェネレーションギャップや世の中の流れについていけないといった悩みを抱えていることが分かった。メンター制度についてはアンケートと同様のコメントが多かった。

今回は，魅力ある学会となるべく委員会活動やメンター制度について会員・非会員からの意見をご報告いただいた。長時間労働という業界の課題はあるものの，学会が人的交流の場となることで解消される悩みもあると感じた。今後，メンター制度も含めて，学会の魅力を高めるような企画の検討の際に参考になるご意見を多数紹介いただいたことに感謝したい。

写真－4　熊野直子氏（ダイバーシティ委員）

2.5　継続は力　私のワークライフバランス

土木系業種への就職で女性第一号として奮闘されてこられた山本美子氏（(株)山口建設コンサルタント）には，継続する！という強い意志とそれを貫いてきて得られた喜びなどについてお話しいただいた。

大学入学時点で土木の職につきたいという希望があったが，昭和 50 年代は女性が土木技術者になるにはかなり厳しい時代であった。コンサルタント会社に就職して，自社の設計したシールド工事現場見学会では，会議室での説明の後，女性は現場に入れてもらえなかった。しかし，認められるまで続けたいと諦めずにキャリアを積んでこられた。子育ては親には頼らないと決めて，夫婦で分担したり，友人に協力してもらったりして乗り切ってこられた。キャリア形成と育児期が同時であったため，職住保の近接の確保や予防接種を休憩時間に連れて行ったなど，育児も業務も最大限に効率化されてこられた。技術士受験時は 3 歳と 0 歳の育児中で，夜泣きの相手をする 15 分の間に手元の電気だけ点けて勉強したといった迫力のエピソードをご披露いただいた。また，仕事は長期的な視点・効率化・機械化が，個人は専門性・計画性が重要であり，ライフも大事にしながらワークも充実させることで「ワークとライフの相乗効果」が生まれるということであった。働くことは社会のためであるが自分の喜びでもあり，私にしかできない“個性”を自他ともに認めることにつながる，と結んでいただいた。

写真－6　山本美子氏

2.6　討議・意見交換

今回は外国籍の方に初めてご講演いただき，討議の時間には，留学している方々に対する学会側のサポートとして，研究発表会で，語学や参加費の費用減免などのサポートや，外国籍の方のためのプログラムがあるとよいといったご提案をいただいた。また社会的な育児サポートとしては病児保育の充実と，男女とも気兼ねなく看病で休めるような雰囲気ができればいいといったコメントがあった。メンター制度に関しても現状での具体例を知りたいといった声が聞かれた。さらに村上会長からは，夫婦での協力体制について質問があり，勤務形態や仕事の状況に合わせて育児・家事に協力してもらっていると回答があった。ワークだけでなくライフでも男女共働が重要であると感じた。

3.　ダイバーシティ推進に向けて

昨年の委員会活動を通して，世代間の交流によって年齢に関係ない会員の活性化や，女性のみでなく外国籍の方も学会活動を楽しんでいただくための方策の検討が課題として挙がった。今年はそれらへの対応として，世代間ワールドカフェの実施や，特別セッションにおいて女性と外国籍の方にご発表いただいた。今後も，地盤工学会が様々な立場の方にとって役に立ち個性を生かせる場であるために何ができるか，社会や会員のニーズの変化を考慮して，攻めの姿勢を持ちながら柔軟に考えていきたい。ダイバーシティ推進活動に協力いただける委員，サポーターは引き続き募集中である。学会への期待，不満，要望等も委員会宛にお届けいただければ幸いである。

参　考　文　献

1)　地盤工学会，「地盤工学会誌」 Vol.63 No.7 Ser.No.690 2015 年 7 月号小特集：ダイバーシティ推進のさきにあるもの <https://www.jiban.or.jp/index.php?option=com_content&;view=article&id=1752%3A2009-01-07-08-26-28&catid=101%3A2008-09-18-06-24-51&Itemid=285>（参照2016.10.3）

（原稿受理　2016. 10. 4）